

1. 研究課題名：

循環型社会政策の効果評価と導入支援のための  
資源利用・廃棄物処理モデルの構築

2. 研究代表者氏名及び所属：

大迫 政浩（国立研究開発法人国立環境研究所）

3. 研究実施期間：平成 28～30 年度



4. 研究の趣旨・概要

3R（リデュース・リユース・リサイクル）政策は循環基本法や個別リサイクル法などによって展開されてきたが、資源生産性の改善は停滞していること、産業廃棄物の最終処分量の削減は概ね限界にきており、資源効率や廃棄物処理をさらに向上・進化させるビジョンや政策が求められている。

本研究は、3R 政策や今後の社会変化が我が国の資源利用や廃棄物管理に与える影響を定量的に算出できる物質フローモデルを構築し、政策の導入量や効果を定量的に示すものである。

これにより、平成 30 年度に策定が予定されている第 4 次循環基本計画における中長期的なビジョンや政策パッケージの設定や今後の循環型社会に向けた政策に貢献する。

5. 研究項目及び実施体制

- ①資源・2R・地域循環に係る政策立案のためのモデル開発（国立環境研究所）
- ②既存政策の分析とモデル分析に基づく政策パッケージの提示（みずほ情報総研株式会社）
- ③横断型プラスチック・リサイクルの政策評価モデルの開発（東京大学）

## 循環型社会政策の効果評価と導入支援のための 資源利用・廃棄物処理モデルの構築



各種リサイクル法などにより、3R(リデュース・リユース・リサイクル)といった循環型社会の政策は大幅に進展したが、国全体でどの施策が効果をあげたかの関係が十分に明らかになっておらず、今後の政策目標の設定等の根拠を十分に示せない。



さらなる取り組みの進展のために、3R政策がどのような効果をもたらすかを定量的に示すモデルの開発と今後の政策パッケージを提示することが求められている。

### <物質フローモデルの開発・改良>

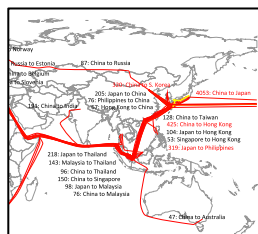
目標: 今後の循環型社会形成の政策の効果等を示すモデルを開発する。

焦点をあてた**モデル開発**

※国環研で開発してきたモデルをベース

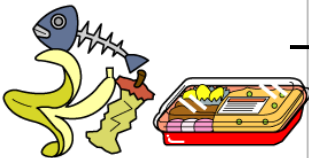
#### <国立環境研究所> (代表機関)

1) 資源モデル  
資源輸入に伴う  
海外での環境影響等



2) リデュース・リユースモデル  
耐久性のある製品の  
資源消費等

3) 地域循環モデル  
食品廃棄物系に着目  
した分析



#### <みずほ情報総研株式会社>

4) 一般廃棄物モデル  
各自治体の施策導入量と  
全国レベルの目標達成を分析



5) 耐久財モデル  
公共工事の減少等による土石  
系循環の需給バランスへの影  
響を分析



#### <東京大学>

6) 横断型プラスチック  
リサイクルモデル  
既存制度の縦割りになら  
ない効果的なリサイクル  
を分析



### <政策分析>

目標: 今後の循環型社会形成の政策パッケージと必要導入量等を提示する。



既存3R施策の整理と  
政策パッケージの  
設定



開発・改良した  
モデルによる**分析**



政策の導入量や  
効果算出と  
政策パッケージ  
の提案

平成30年に策定予定の循環基本計画に  
成果をインプットすることを目指す。